

# 豊橋市ウォーター—PPP 導入可能性調査報告

豊橋市上下水道局 2026/3/31

## ▶ 令和6年度調査の結果「豊橋市ウォーターPPP導入可能性基礎調査」

### 令和7年度調査結果「豊橋市ウォーターPPP導入可能性調査」

- マーケットサウンディング・簡易的VFM
- 高精度VFM
- 導入スケジュール

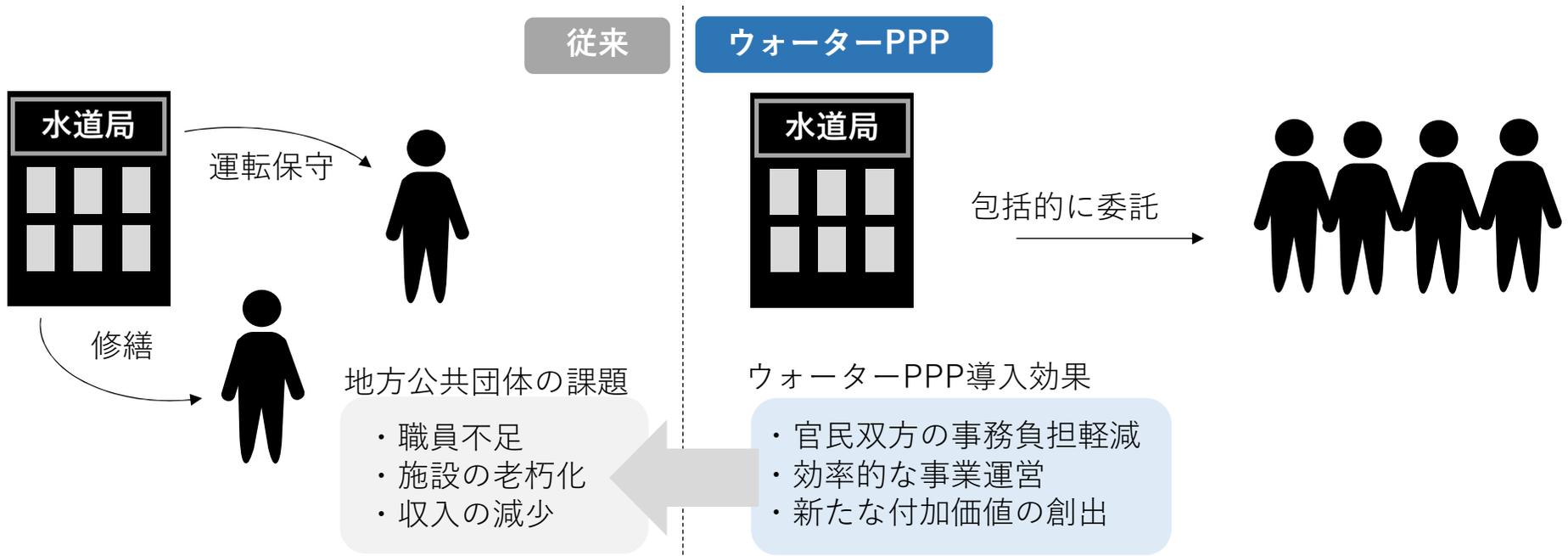
※ この報告書は、外部委託した以下の調査業務もとに、豊橋市としてまとめたものです。

令和6年度：豊橋市ウォーターPPP可能性基礎調査業務

令和7年度：豊橋市ウォーターPPP可能性調査業務

# ウォーターPPPとは

- 令和5年度に国が示した水道、下水道事業の新たな官民連携の考え方
- 職員不足や施設の老朽化などの水道、下水道事業が抱える課題を解決する有効な手段として、国が推進。
- 導入することが、令和9年度以降の国の交付金の要件化。

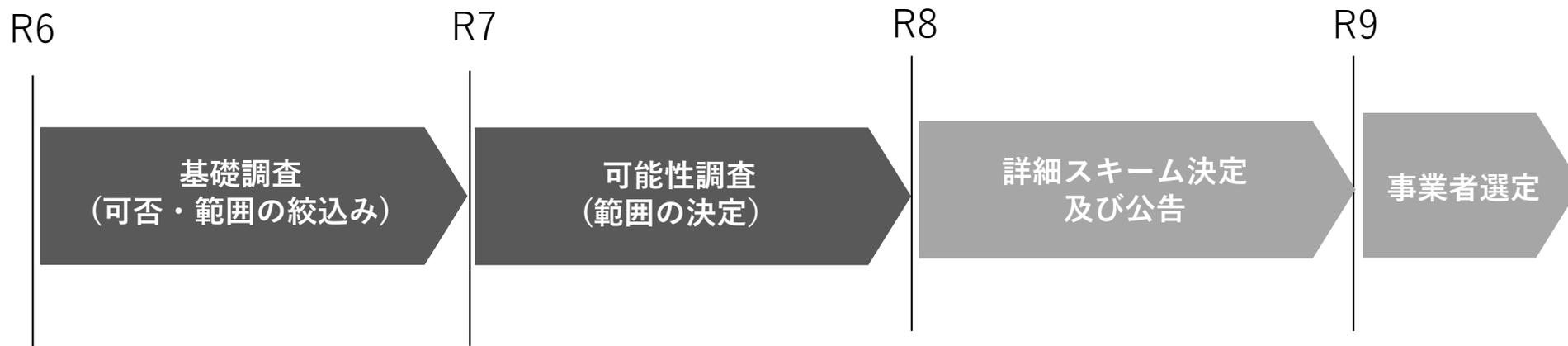


(参考) 豊橋市の交付金状況 (管渠ストックマネジメント事業費) R3~R6は決算、R7は予算

|      | R3(2021) | R4(2022) | R5(2023) | R6(2024) | R7(2025) |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 事業費  | 3.3億     | 18.9億    | 22.2億    | 22.4億    | 36.6億    |
| 国交付金 | 1.3億     | 9.0億     | 8.0億     | 10.2億    | 11.7億    |

## 検討の経緯

- 毎年約10億円程度の交付金実績のある豊橋市にとって、要件化は影響大
- 令和8年度中の公告（令和9年度の国庫補助金の要件クリア）を想定し、令和6年度から導入検討に着手
  - 令和6年度：豊橋市の全処理区を対象に検討をスタートし、対象となる範囲・スキームを絞込む
  - 令和7年度：導入案を決定

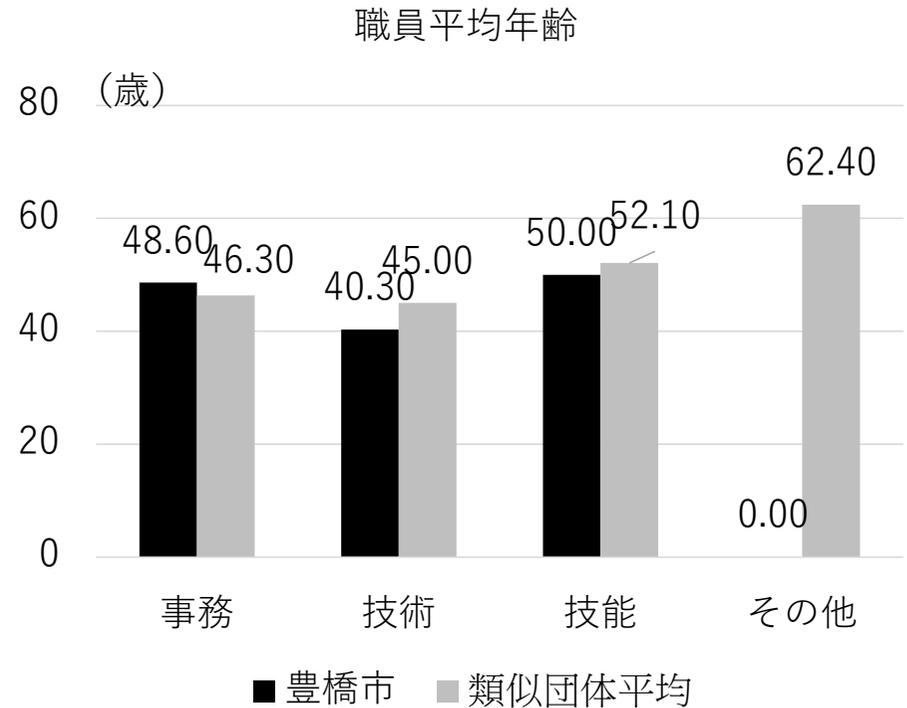
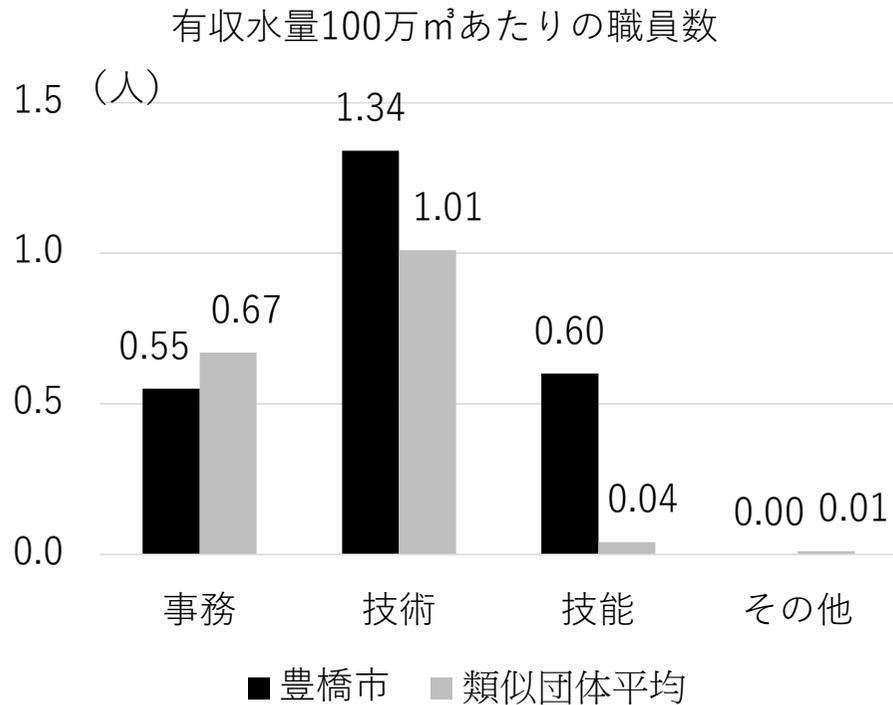


# ウォーターPPPの導入効果と課題

| 要因   | ヒト                             | モノ  | カネ                        |
|------|--------------------------------|---|---------------------------|
| 委託拡大 | ○ 委託拡大による負担軽減<br>△ 職員技術力の確保/継承 |   |                           |
| 民間活力 |                                | ○ 民間提案による技術力・創意工夫によるサービス向上（特に維持管理と更新のマネジメント）<br>△ リスク分担の明確化<br>△ 民間事業者によってはサービスの質の低下の恐れがある。 | ○ 民間提案による経費削減             |
| 一括発注 | ○ 発注業務削減による負担軽減                | ○ 連絡調整削減による迅速化  | ○ 諸経費等の削減<br>△ 公平性、競争性の担保 |

- 「○」は導入効果、「△」は導入課題

# 豊橋市の現状（職員）

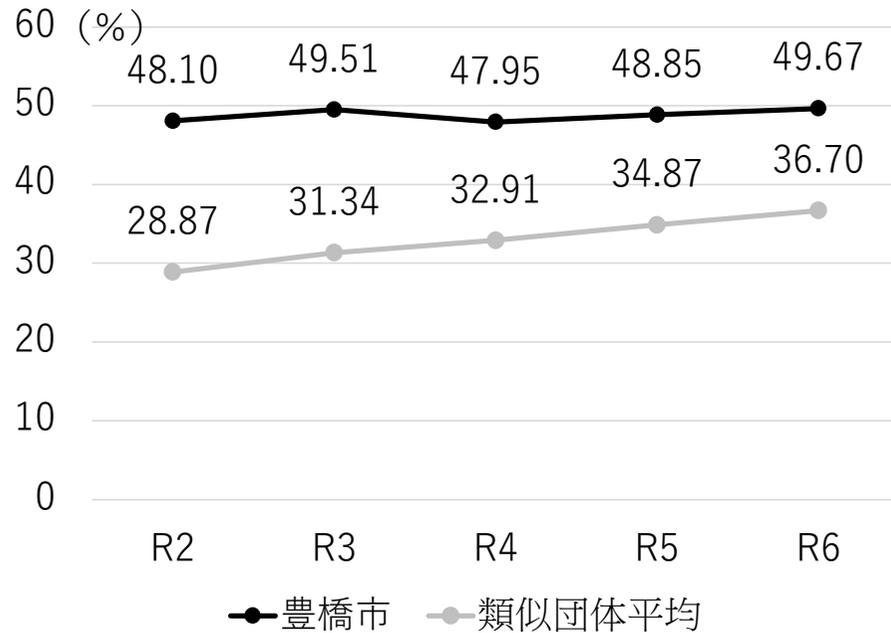


- 平均に比べて、技術職の職員数は多く、技能職（労務職）の職員数はかなり多い。
- 平均に比べて、技術職、技能職ともにわずかに平均年齢は低い。

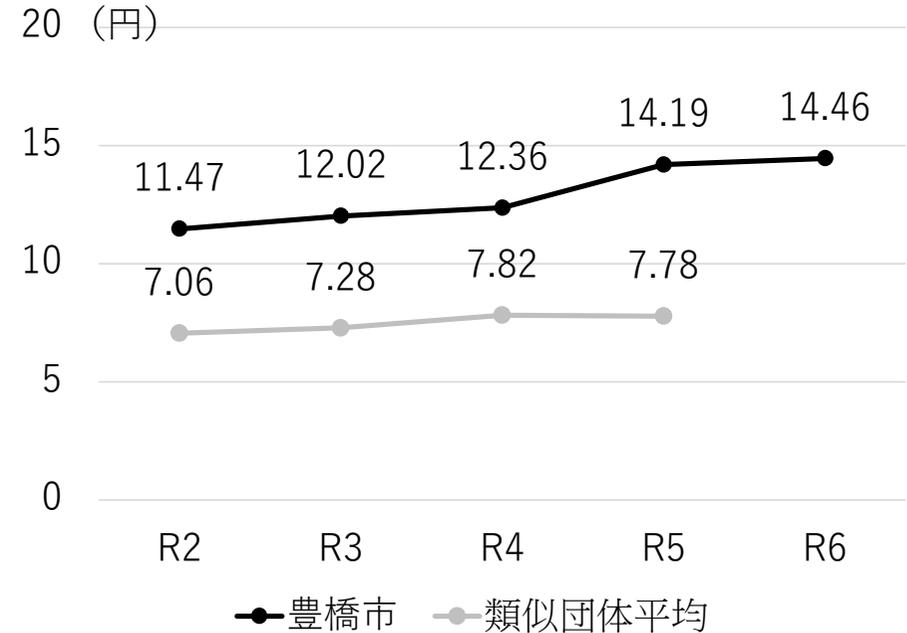
※ 公営企業決算状況調査（R6決算）より。下水道事業の合計。豊橋市はし尿を含む。  
 ※ 平均値は公共下水道事業の類似団体平均。

# 豊橋市の現状（施設）

有形固定資産減価償却率



有収水量1m<sup>3</sup>あたりの修繕費

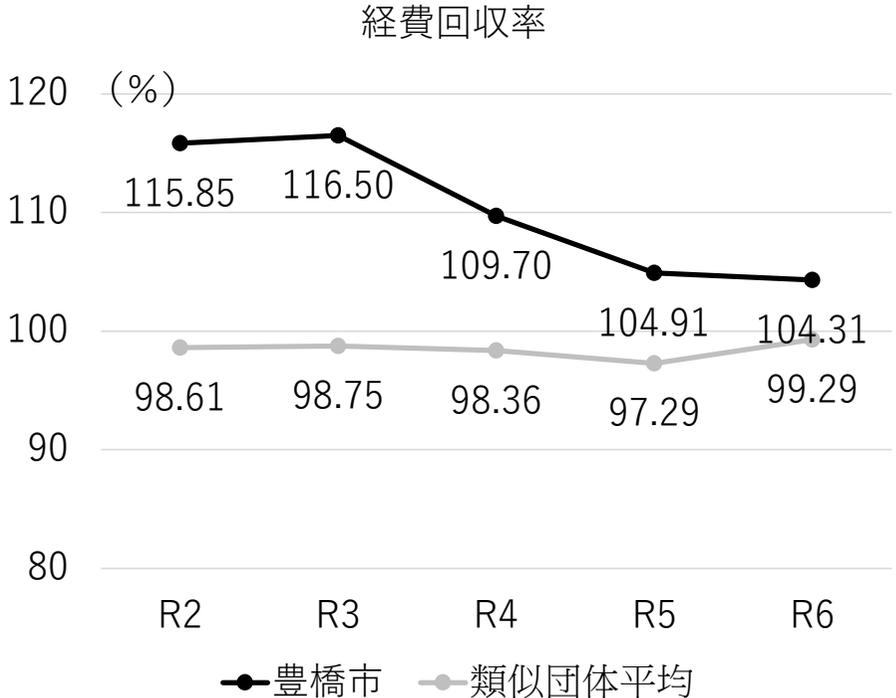
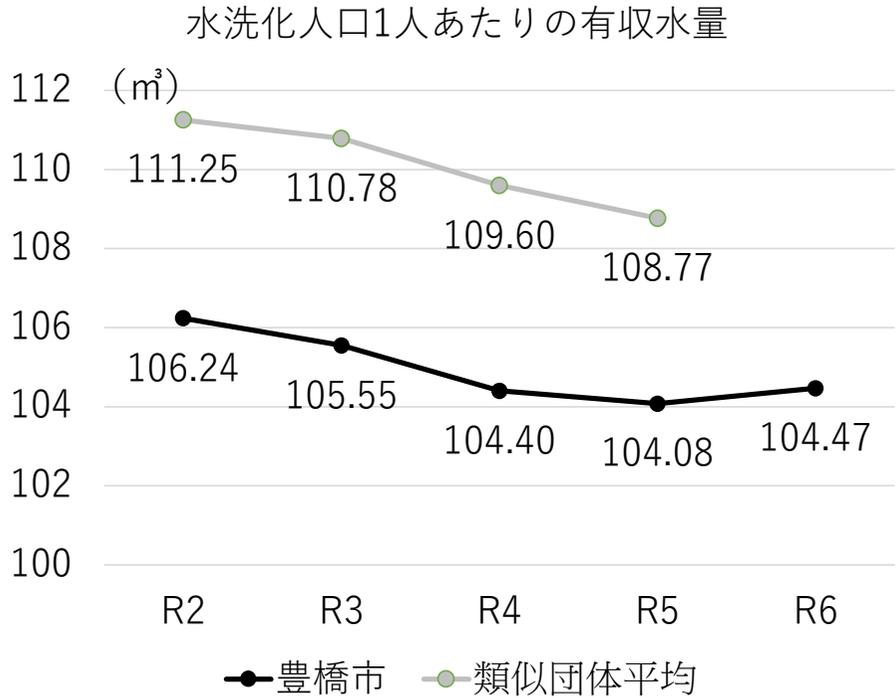


▶ ともに平均値より高く、老朽化が進んでいる。

※ 公営企業決算状況調査より。下水道事業の合計。豊橋市はし尿を含む。

※ 平均値は公共下水道事業の類似団体平均。

# 豊橋市の現状（水量、財務）



- 有収水量は減少傾向。
- 経費回収率は、100%以上を維持しているものの、低下傾向。

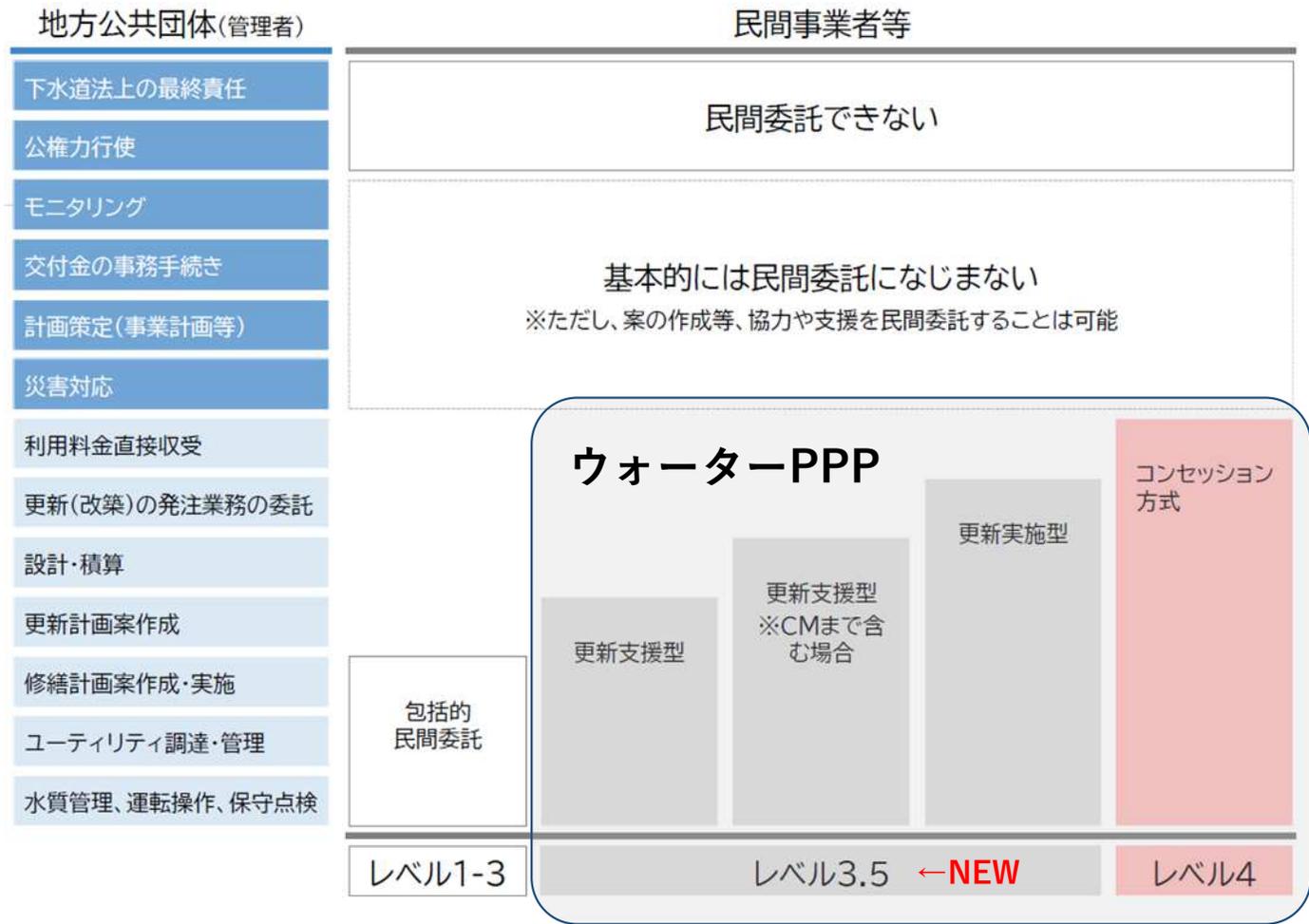
※ 公営企業決算状況調査より。下水道事業の合計。豊橋市はし尿を含む。  
 ※ 平均値は公共下水道事業の類似団体平均。

## 豊橋市の現状と課題の対応

|    | 現状・課題  | WPPPによる期待される課題対応  |
|----|--|---|
| ヒト | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後増大する工事や維持管理に対して職員が不足する可能性。</li> <li>管路では、緊急対応だけでなく、見回りなどの予防的な点検調査が不十分。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>委託の拡大や一括発注により増加する工事への対応や技術力向上のための体制強化に期待。</li> </ul> |
| モノ | <ul style="list-style-type: none"> <li>施設更新や維持管理に関するデータの精度が低い。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>委託拡大や一括発注により、データ精度の向上のための体制強化に期待</li> </ul>          |
| カネ | <ul style="list-style-type: none"> <li>使用料収入が減少している。</li> <li>黒字幅は低下傾向である。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>一括発注により経費の削減が期待</li> </ul>                           |

- **ウォーターPPPの導入は、将来を見据えた効率的な施設の維持管理を行うための有効な手法の一つとして期待できる。**

# ウォーターPPPの仕組み



## <ウォーターPPPの4要件>

|                 |   |
|-----------------|---|
| 長期契約<br>(原則10年) | 民間事業者の雇用の安定性や投資効果が発現する時間を確保する。                            |
| 性能発注<br>(⇔仕様発注) | 業務の目的するサービス水準を指定する性能発注とすることで、手法の選択は民間事業者任せ。               |
| 維持管理<br>+更新     | 日常の維持管理と、更新の双方を組み合わせることで、相乗効果を生む。                         |
| プロフィット<br>シェア   | 事業開始後、民間事業者の提案による効果(コスト削減など)を、官民で分け合うことで、創意工夫のインセンティブとする。 |

※国土交通省資料

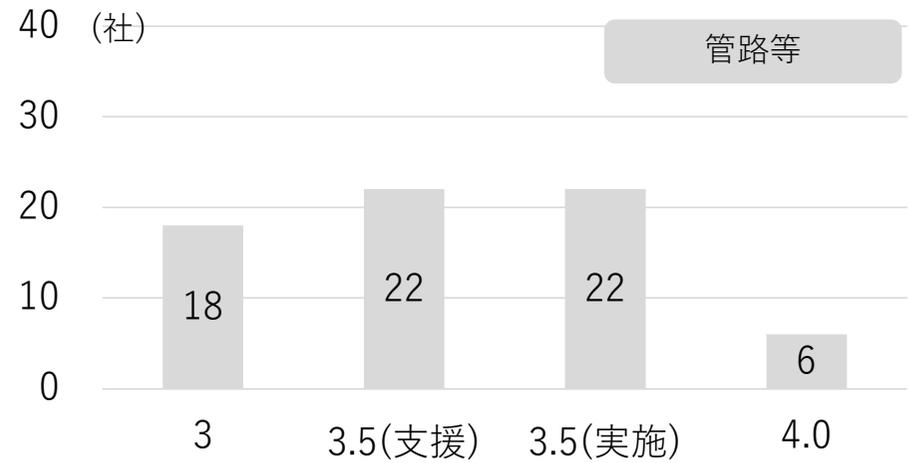
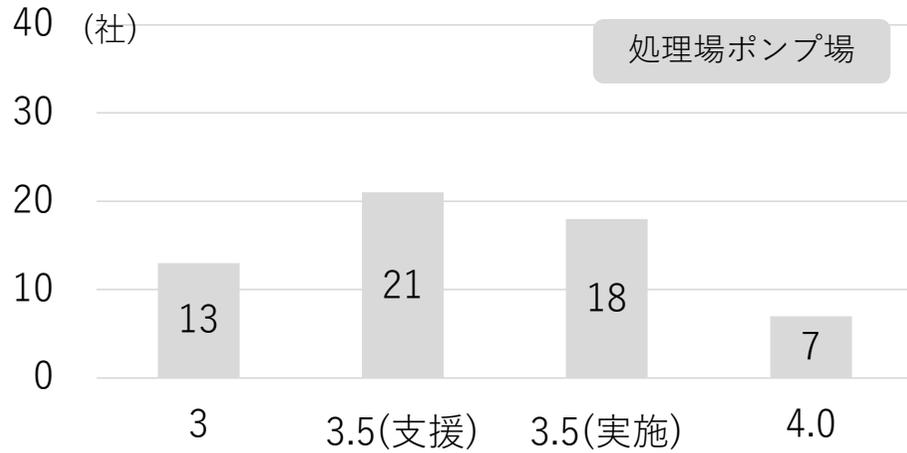
## 各方式の違い

|             | レベル3.5<br>(更新支援型)       | レベル3.5<br>(更新実施型)                                | レベル4.0<br>(コンセッション)           |
|-------------|-------------------------|--|-------------------------------|
| 事業者<br>の財源  | 委託料                     | 委託料  | 直接収受する利用料金                    |
| 事業実施<br>の制限 | 自治体予算の枠内                | 自治体予算の枠内   | 自治体予算に縛られない。                  |
| 事業期間        | 原則10年                   | 原則10年  | 10～20年                        |
| PFI法        | 手続が必須ではない。              | 手続が必須ではない。                                       | 必須                            |
| 導入準備        | レベル4よりも短期               | レベル4よりも短期  | レベル3.5よりも長期                   |
| 施設管理<br>の特徴 | 維持管理と更新の相互連携が<br>促進される。 | 改築工事が含まれるため、更<br>新支援型より高い一括発注効<br>果があるが、更新計画が必要。 | 運営権が設定され、事業者の<br>裁量範囲がさらに大きい。 |

# 事業者ヒアリング（アンケート結果）

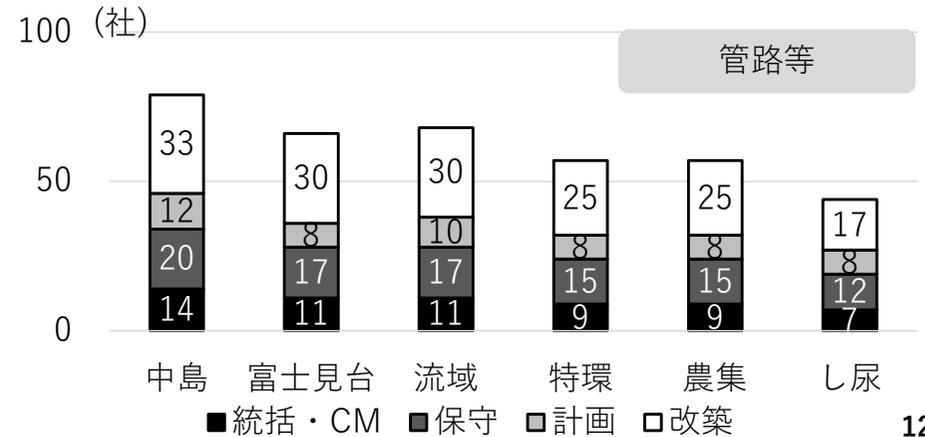
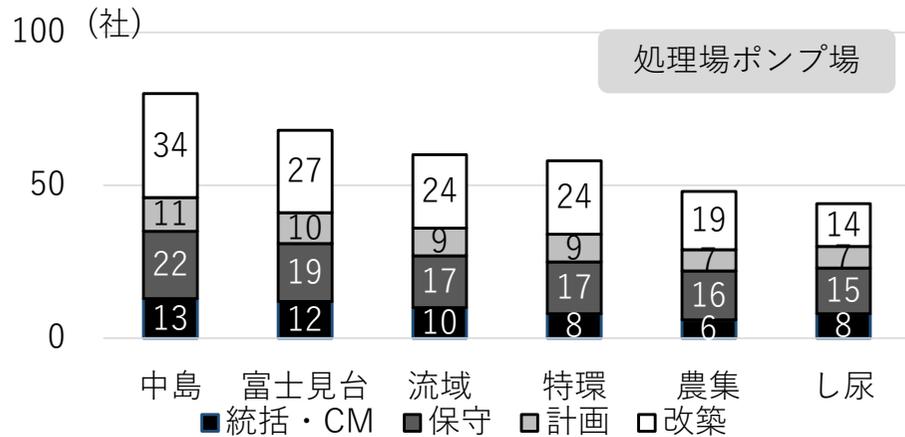
## 希望する事業方式（レベル）

▶ レベル4.0を希望する事業者は少ない。



## 参入可能な処理区

▶ どの処理区でも参入可能な事業者あり。



## 事業者ヒアリング（対話ヒアリング）

| 事業者の分類          | 想定する対応施設 | 対応業務 | ヒアリング事業者数 | 内容   |
|-----------------|----------|------|-----------|--|
| 処理場等の現在の維持管理事業者 | 主に処理場等   | 全て   | 5社        | <ul style="list-style-type: none"> <li>1社を除き、官民連携の経験があり、参入に意欲的。PPPにより自社の強みが発揮でき、維持管理の効率性が高まると回答。</li> <li><u>全社が更新支援型を希望。</u></li> <li>南部地域に点在する処理区は、バンドリングによりさらに効果を発揮できると回答。</li> </ul> |
| 地元建設会社          | 主に管路     | 保守工事 | 6社        | <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に官民連携の経験が無く、理解を深めたうえで参入意欲を問う必要がある。</li> <li><u>PPPに理解のある事業者は、更新支援型を希望。</u></li> </ul>  |
| コンサルタント         | 主に管路     | 統括   | 3社        | <ul style="list-style-type: none"> <li>3社とも官民連携の経験があり、管路の統括業務が可能。</li> <li>効率的な更新のためには、施設データの精度が重要だとの回答</li> </ul>   |
| 大手建設会社          | 全て       | 統括   | 3社        | <ul style="list-style-type: none"> <li>2社は官民連携の経験が豊富で、規模の大きい中島処理区での統括業務を想定していた。</li> <li>特に管路の更新実施型では、管路状態を把握出来ていることが重要であるとの回答</li> </ul>  |

# 導入効果（簡易的なVFM）

## 10年間の費用削減効果額

（単位：百万円）

|        | 施設分類   | 処理区（下段：排水人口割合） |      |       |       |       |       |
|--------|--------|----------------|------|-------|-------|-------|-------|
|        |        | 中島             | 富士見台 | 流域    | 特環(3) | 農集(6) | し尿(4) |
|        |        | 71.7%          | 2.8% | 19.0% | 1.6%  | 2.8%  | 2.1%  |
| 3.5支援型 | 処理場等のみ | ▲613           | 26   | ▲1    | 10    | 41    | 8     |
|        | 管路のみ   | 140            | ▲16  | 1     | ▲20   | ▲24   | ▲25   |
|        |        | ▲448           | 34   | 25    | 15    | 42    | 8     |
| 3.5実施型 | 処理場等のみ | ▲158           | 222  | ▲9    | ▲80   | ▲22   | 77    |
|        | 管路のみ   | 3,638          | ▲92  | 594   | ▲26   | ▲143  | ▲143  |
|        |        | 3,624          | 274  | 728   | 37    | ▲22   | 77    |

- ※ 現体制による将来事業費（=PSC）とウォーターPPP導入後の将来事業費（=LCC）の差額。「▲」の場合は費用増加となる。
- ※ LCCは、委託・工事費等において、過去のPPP導入事例による削減効果率（中央値）の実績を勘案し算出。
- ※ 導入後の増額要素（=LCC）として、ウォーターPPP契約にかかる発注支援業務委託費、SPC運営費（実施型のみ）を加算している。
- ※ 中島処理場のみ、職員による直接管理を民間委託に移行する試算を行い、特に必要なる人員に差が出るため増加となっている。
- ※ 効果額は、各セル単独で導入した場合の想定額。

- 規模が大きいかほど期待は高い。
- 実施型の中島、富士見台、流域関連処理区以外の効果は大きくはない。
- 中島処理区の処理場等は、PPPの導入により事業費が増額となる。

## R6基礎調査結果

### 導入範囲の考え方

- VFMなどの効果は期待されるものの、全国的な導入事例が少なく、予測できないリスクが起こる可能性があるため、**事業運営への影響が少ない方式・処理区を基本とする。**

### 事業方式

- 影響が少ない**レベル3.5（更新支援型）**とする

### 対象処理区

- 影響の大きい**中島処理区、流域関連処理区のポンプ場等**を除外する。

## R6基礎調査結果

| 分類    | 排水人口割合 | 国交付金要件を満たす処理区                                 | 追加する処理区、施設                       |
|-------|--------|---|----------------------------------|
| 中島    | 71.7%  | 事業運営への影響が大きいため、 <u>選択肢から除外</u> 。              | —                                |
| 富士見台  | 2.8%   | 事業運営の影響は限定的だと考えられるため、 <u>選択肢の対象とする</u> 。      | —                                |
| 流域    | 19.0%  | 雨水ポンプ場があり、処理区単位での導入リスクが高いため、 <u>選択肢から除外</u> 。 | 管路の課題対応に期待し、 <u>管路のみ選択肢に追加</u> 。 |
| 特環(3) | 1.6%   | 事業運営の影響は限定的だと考えられるため、 <u>選択肢の対象とする</u> 。      | —                                |
| 農集(6) | 2.8%   | —   | —                                |
| し尿(3) | 2.1%   | —   | バンドリング効果に期待し、 <u>選択肢に追加</u> 。    |

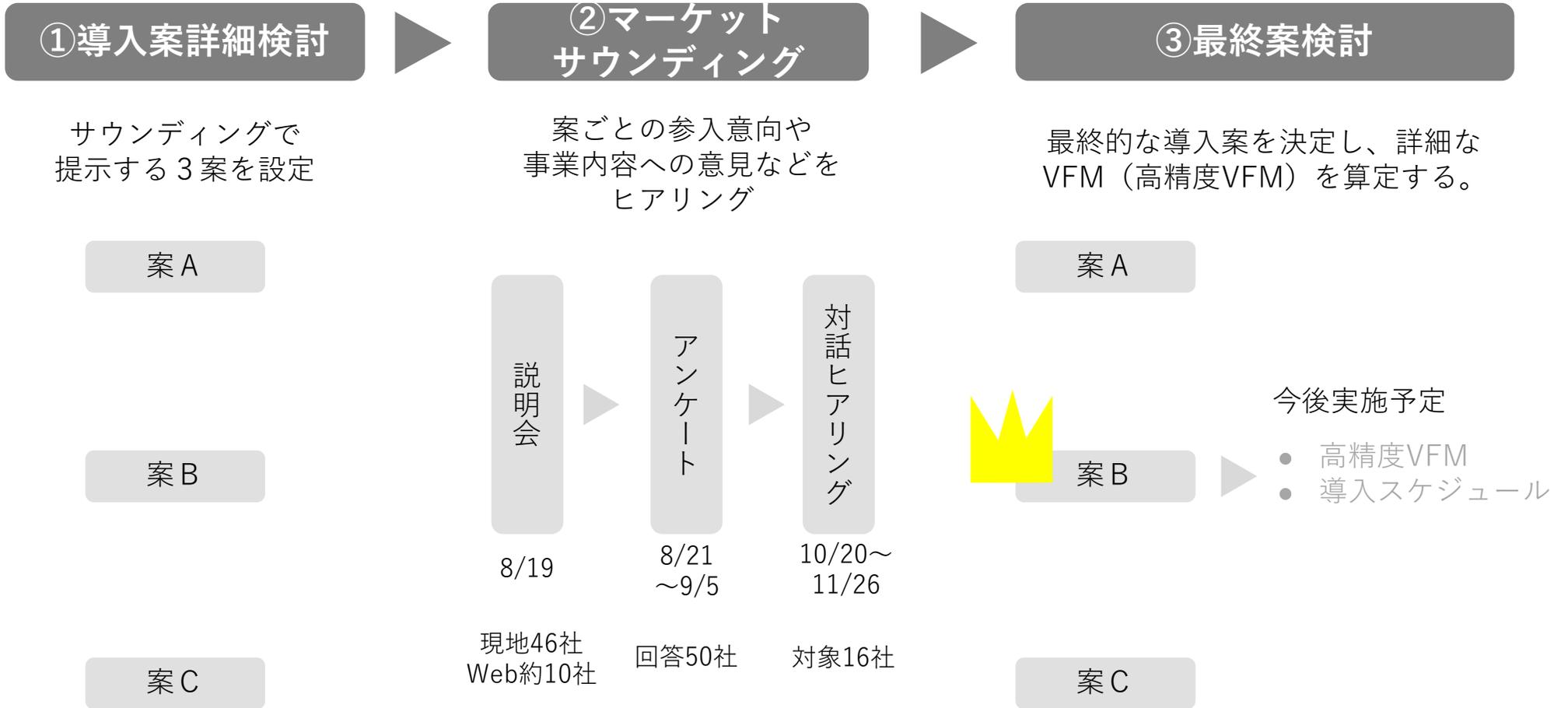
- **富士見台**もしくは**特環**で交付金要件をクリアする。
- **流域（管路のみ）**および**し尿**は、追加的な効果が期待できる**選択肢**とする。
- これらを組み合わせた導入案を**令和7年度に決定**する。

## 令和 6 年度調査の結果「豊橋市ウォーターPPP導入可能性基礎調査」

### ▶ 令和 7 年度調査結果「豊橋市ウォーターPPP導入可能性調査」

- **マーケットサウンディング・簡易的VFM**
- 高精度VFM
- 導入スケジュール

# R7可能性調査の検討内容



## サウンディングに提示する導入案の設定

| 項目                    |      | 案1→案① | 案2  | 案3→案② | 案4→案③ | 案5  | 案6 |
|-----------------------|------|-------|-----|-------|-------|-----|----|
| 中島                    | -    |       |     |       |       |     |    |
| 富士見台                  | 全体   | ●     | ●   | ●     | ●     |     |    |
| 流域                    | 管路のみ | ●     | ●   |       |       | ●   |    |
| 特環(3)                 | 全体   | ●     |     |       |       | ●   | ●  |
| 農集(6)                 | -    |       |     |       |       |     |    |
| し尿(3)                 | 全体   | ●     | ●   | ●     |       | ●   |    |
| 処理場数                  |      | 8     | 5   | 5     | 1     | 7   | 3  |
| ポンプ場数                 |      | 3     | 3   | 3     | 3     | 0   | 0  |
| 管路延長(km)              |      | 415   | 331 | 74    | 49    | 367 | 84 |
| 簡易VFM (百万円)           |      | 127   | 90  | 64    | 31    | 71  | 8  |
| 試行的な価値<br>(全ての施設を含むか) |      | ○     | ○   | ○     | ○     |     |    |
| 広域連携の支障<br>(流域を含まないか) |      |       |     | ○     | ○     |     | ○  |

➤ **規模の大小ある事業者の意向が確認しやすいよう、規模に幅をもたせて（大・中・小）選択する。**

- ✓ 規模の大きい案（効果の期待が高い案）は、候補の処理区をすべて含む「案1」とする。（定量的判断）
- ✓ 規模の中&小案は、案3および案4とする。（定性的判断）

※ 簡易VFMは、R6調査結果を用いて導入案ごとに整理しなおしたものの。10年間の削減効果額の合計。

# マーケットサウンディングの流れ

## 説明会 (8/19)

- 事前申し込み制（誰でも申込可）
- 現地46社、Web約10社が参加
- 豊橋市の検討状況、設問内容等について説明

## アンケート (8/21～9/5)

- HPから誰でも回答可
- 50社が回答
- 参入意向、事業スキーム、削減率などについての設問

## 対面ヒアリング (10/20～11/5)

- アンケート回答者のうち15社
- 事業者の業務範囲から選定
- アンケート内容について詳細質問

## ヒアリングの内容

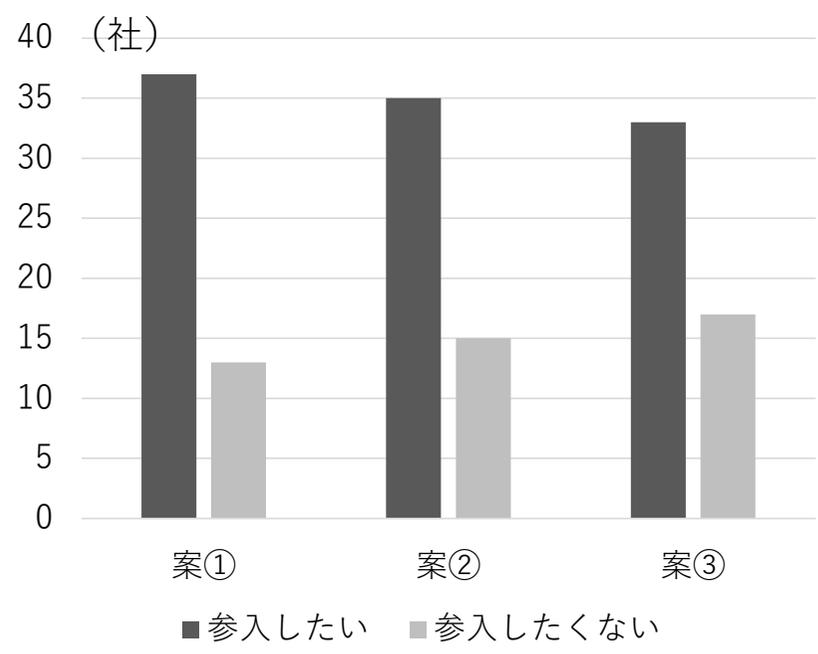
- 導入案ごとの参入意向、体制の想定
- 具体的な業務内容への意見、実現可能性
- 削減率※の見通し

※ 官民連携の導入により、導入しない場合の費用と比較して削減される費用の割合。

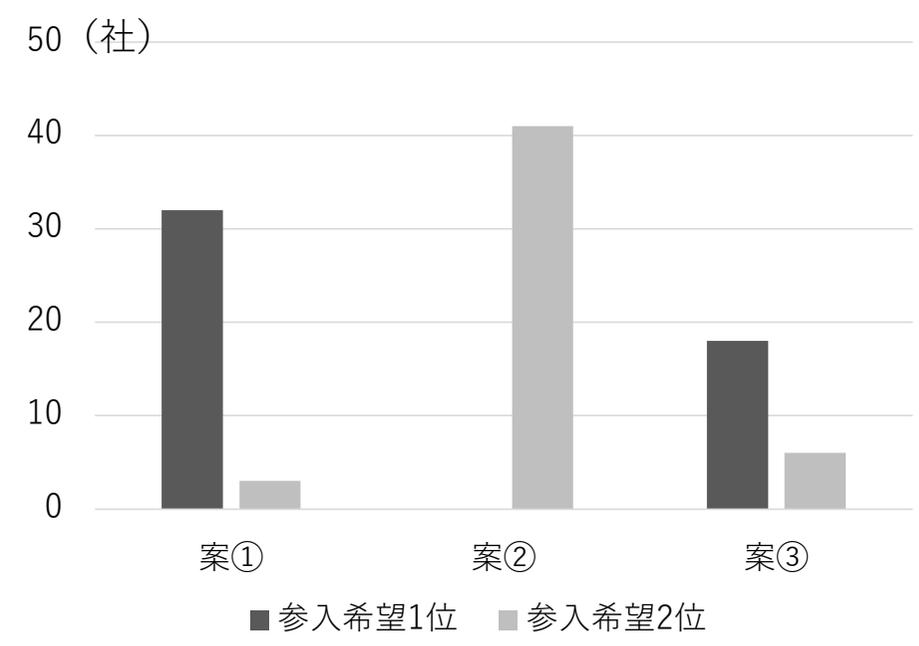
## 導入案

| 事業分類  | 処理区                   | 施設   | 案① | 案② | 案③ |
|-------|-----------------------|------|----|----|----|
| 公共下水道 | 富士見台<br>(特環含む)        | 全体   | ●  | ●  | ●  |
| 公共下水道 | 豊川流域関連<br>(特環含む)      | 管路のみ | ●  |    |    |
| 特環    | 高根・豊南・五並              | 全体   | ●  |    |    |
| し尿    | 天津・いずみが丘・<br>野依台・杉山御園 | 全体   | ●  | ●  |    |

# 参入意向



導入案それぞれに対する参入意向



すべての導入案に対する参入意向

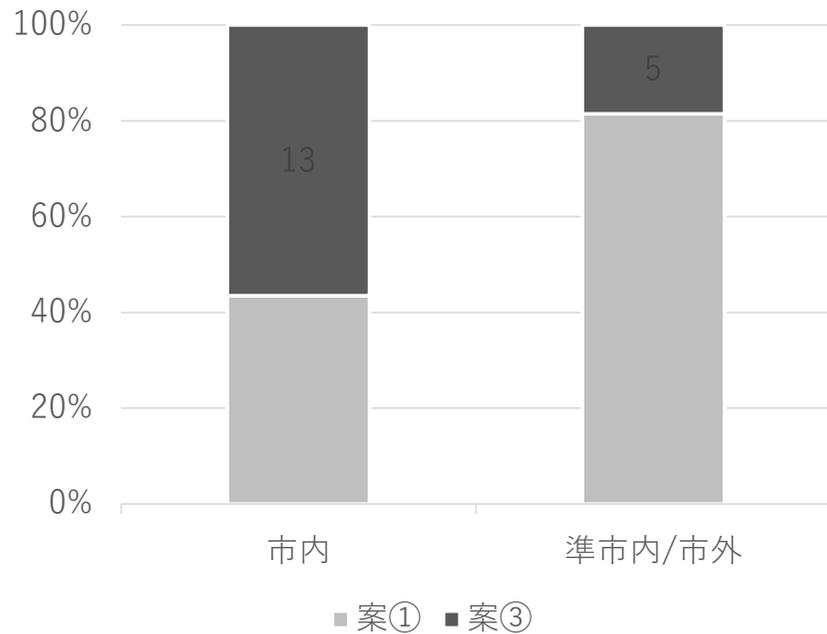
- ▶ 範囲が大きくなるとともに、参入意向が強くなる。
- ▶ 案③でも、参入意向は一定数ある。

# 対話ヒアリング

| 施設   | 業務内容 | 導入範囲に関する意見内容  |
|------|------|---|
| 処理場等 | 運転保守 | <ul style="list-style-type: none"><li>• どの案にしても小規模であるため、対応可能。</li><li>• 自身は代表企業を想定しており、チームを組む他の管路事業者の意見としては、流域関連処理区が含まれること <u>(案①)</u> を希望している。</li></ul> |
| 管路   | 調査   | <ul style="list-style-type: none"><li>• どのような内容でも、対応は可能。</li></ul>  |
| 共通   | コンサル | <ul style="list-style-type: none"><li>• 流域関連処理区が含まれない <u>(①でない)</u> 場合、<u>管路施設で効果を出すのは難しい。</u></li><li>• 更新計画は、市全域で考えるものなので、1者で請け負うことが理想的。</li></ul>      |

➤ 事業費の削減効果は、案①での導入が最も期待できる。

# 地元事業者の意向



| 施設   | 業務内容 | 導入範囲に関する意見内容  |
|------|------|---|
| 処理場等 | 修繕   | <ul style="list-style-type: none"> <li>どのような内容でも協力はしていきたいが、地元事業者の発注が減ることはさけてもらいたい。</li> </ul> |
| 管路   | 修繕   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地元事業者の発注が減ることはさけてもらいたい。</li> </ul>                     |

➤ 地元事業者（市内事業者）は、案③を希望する事業者の方が多い。

# VFMおよび人工削減効果

| 項目            |          | 案①                     | 案②      | 案③     |
|---------------|----------|------------------------|---------|--------|
| 対象範囲          |          | 富士見台、し尿<br>流域（管路のみ）、特環 | 富士見台、し尿 | 富士見台   |
| マーケットサウンディング  |          | ◎                      | △       | ○      |
| 簡易            | 処理場等 百万円 | 55～81                  | 11～29   | 25～36  |
| VFM<br>(10年間) | 管路 百万円   | 14～22                  | 1～3     | 0.9～2  |
|               | 共通 百万円   | ▲25                    | ▲25     | ▲25    |
| 削減効果額         | 合計 百万円   | 44～78                  | 12～32   | 0.9～13 |
| 人工            | 日人工/年    | 92                     | 42      | 19     |

※ ▲（VFM-共通）は、導入により追加で必要となる費用

※ 簡易VFMは、基礎的な計算根拠は令和6年度調査結果を踏襲し、削減率を変更。

※ 人工は、職員1人あたりの年間人工が240日人工/年として算出。

※ 削減率は、マーケットサウンディングのアンケート結果を用いた。

✓ 事業者の参入意向が強く、VFMの期待が高いのは、案①という結果となった。

✓ 地元事業者の意向が強いのは、案③であった。

➤ 地元事業者の意向を重視し、案③での高精度VFMを算定する。

➤ ただし、VFMが縮減する可能性も考慮し、案②についても高精度VFMを算定する。

## 令和6年度調査の結果「豊橋市ウォーターPPP導入可能性基礎調査」

### ▶ 令和7年度調査結果「豊橋市ウォーターPPP導入可能性調査」

- マーケットサウンディング・簡易的VFM
- **高精度VFM**
- 導入スケジュール

## VFM結果 案③（富士見台）

○通常業務効果 効果額は10年間の合計。単位は百万円

|      |        | （管路あり）     |              |             |               | （管路なし）     |            |           |              |
|------|--------|------------|--------------|-------------|---------------|------------|------------|-----------|--------------|
|      |        | PSC        | LCC          | 効果額         | 効果率           | PSC        | LCC        | 効果額       | 効果率          |
| 処理場等 | 富士見台   | 771        | 752          | 19          | 2.5%          | 771        | 752        | 19        | 2.5%         |
| 管路   | 富士見台   | 58         | 324          | ▲267        | ▲464%         | —          | —          | —         | —            |
| 全体   | 統括管理業務 | 18         | 16           | 2           | 13%           | 5          | 11         | ▲6        | ▲104%        |
|      | 導入準備   | —          | 23           | ▲23         | —             | —          | 23         | ▲23       | —            |
| 合計   |        | <b>847</b> | <b>1,116</b> | <b>▲269</b> | <b>▲31.7%</b> | <b>777</b> | <b>786</b> | <b>▲9</b> | <b>▲1.1%</b> |

### ➤ VFMはマイナスとなる。

（VFMがマイナスとなる要因）

- ✓ 管路の緊急現場調査（24時間365日対応）費用の追加によるLCCの増。
- ✓ 処理場等の維持管理費の実績額について、処理区ごとに詳細に区分した結果、PSCの減。
- ✓ 統括管理業務の追加によるLCCの増。

## VFM結果 案②（富士見台+し尿）

○通常業務効果 効果額は10年間の合計。単位は百万円

|      |        | （管路あり） |       |      |        | （管路なし） |       |     |      |
|------|--------|--------|-------|------|--------|--------|-------|-----|------|
|      |        | PSC    | LCC   | 効果額  | 効果率    | PSC    | LCC   | 効果額 | 効果率  |
| 処理場等 | 富士見台   | 771    | 752   | 19   | 2.5%   | 771    | 752   | 19  | 2.5% |
|      | し尿     | 820    | 798   | 22   | 2.7%   | 820    | 798   | 22  | 2.7% |
| 管路   | 富士見台   | 58     | 187   | ▲129 | ▲224%  | —      | —     | —   | —    |
|      | し尿     | 34     | 164   | ▲130 | ▲377%  | —      | —     | —   | —    |
| 全体   | 統括管理業務 | 41     | 28    | 13   | 32%    | 15     | 22    | ▲7  | ▲46% |
|      | 導入準備   | —      | 23    | ▲23  | —      | —      | 23    | ▲23 | —    |
| 合計   |        | 1,724  | 1,952 | ▲228 | ▲13.2% | 1,606  | 1,596 | 11  | 0.7% |

➤ 案②（管路なし）のVFMが**プラス**となる。

# 最終案

高精度VFMがプラスである、**案②（管路なし）**を導入案として、発注準備を進める。

➤ 国庫補助要件について

- 処理内の施設の全てを含めているわけではないため、国庫補助金の要件としての「処理区単位での導入」に合致せず、管路施設を対象外とするため、「管理者は客観的な情報に基づいて説明できる必要」が発生する。
- ウォーターPPPガイドラインによれば、客観的な情報の一例として「VFMの結果」が挙げられており、管路施設を含む案②、案③いずれもVFMがマイナスとなっていることが、客観的な情報になり得ると考えられる。

| 処理区   | 事業分類 | 処理面積 (ha) | ポンプ場 (箇所) | マンホールポンプ場 (箇所) | 処理場 (箇所) |
|-------|------|-----------|-----------|----------------|----------|
| 富士見台  | 公下   | 93.9      | 1         | 0              | 1        |
|       | 特環   | 14.2      | 2         | 0              |          |
| 天津    | し尿   | 13.0      | 0         | 0              | 1        |
| いずみが丘 | し尿   | 19.1      | 0         | 0              | 1        |
| 野依台   | し尿   | 63.6      | 0         | 2              | 1        |
| 杉山町御園 | し尿   | 7.0       | 0         | 2              | 1        |
| 合計    |      | 210.8     | 3         | 4              | 5        |

(ポンプ場)

- 富士見台中継ポンプ場
  - 若松東ポンプ場
  - むつみね台ポンプ場
- (マンホールポンプ場)
- いずみが丘第1ポンプ場
  - いずみが丘第2ポンプ場
  - 植田ポンプ場
  - 植田三区ポンプ場

(処理場)

- 富士見台処理場
- 天津処理場
- いずみが丘処理場
- 野依台処理場
- 杉山町御園処理場

## 令和6年度調査の結果「豊橋市ウォーターPPP導入可能性基礎調査」

### ▶ 令和7年度調査結果「豊橋市ウォーターPPP導入可能性調査」

- マーケットサウンディング・簡易的VFM
- 高精度VFM
- **導入スケジュール等**

# モニタリング手法の検討

- 職員の技術低下の回避、リスクを最小化し、ウォーターPPPの効果をより発揮するためには、モニタリングは重要な要素であり、その手法は公募時に発注者側から提示することが好ましい。
- 具体的な内容は令和8年度以降に検討する。

- 実施体制

①管理者モニタリング、②セルフモニタリング、③第三者モニタリング（任意）がある。職員の技術力確保を考慮し、①②を基本とする。

- 実施方法

①書類による確認、②会議体による確認、③現地における確認の3種類から選択する。①②を基本に、職員の技術力確保を踏まえ③の実施も検討する。

- 実施対象

以下の項目から来年度検討する。

| 事業分類       | 具体例  |
|------------|--|
| 各業務の適正な履行  | 現在実施している委託の確認項目／上記の他に提出、報告を求める項目                 |
| 要求水準の達成状況  | 各業務の要求水準の達成状況                                    |
| 事業全体の工程管理  | 年単位、月単位等の工程管理／業務間、企業間の調整事項の確認                    |
| 品質管理       | 公募資料や提案書の内容を履行しているか／発生した事故等への対応状況等               |
| 事業全体に関する評価 | 費用的効果（VFM）／期待している項目に関する達成状況（予防保全の推進、維持管理データの活用等） |

# 豊橋市ウォーターPPP発注に向けた今後のスケジュール案

